1）テーマ：「地域とつながる交流会」

2）カテゴリー：連携

3）学校概要：①学校名：京都中部総合医療センター看護専門学校

②所在地：京都府南丹市八木町南広瀬上野３番地１

③課程名：３年課程　１学年　40 名　就業年限　３年

【ねらい】

本校は「地域で暮らす人々の生活や文化、価値を理解し慈しむ豊かな感性を持ち、常に誠実に対象に寄り添い信頼される」を教育目標とし様々な地域交流から看護を学ぶカリキュラムの構築をしている。

地域交流会は今年で４年目になる。主に老年看護学として３回/年血圧測定、足浴、手浴、血管年齢測定、ゲームなどを学生が企画し実施している。援助技術だけでなく測定結果から対象にわかりやすいパンフレットを用いて健康指導の方法も学ぶ。地域の方と関わる中で高齢に伴う身体的変化や価値観、生きてきた時代背景、生きがいなど多くの学びをしている。学生達は「ありがとう。頑張ってね」「病院があるから安心して暮らせるのよ」「いつかお世話にあるから頼むね」と温かい言葉をいただきモチベーションの維持だけでなく実習（就職）病院が地域で果たす役割の理解につながっている。

卒業生の多くが地域貢献をしたいと言っており病院から地域へとつながる力を持つ看護師育成ができるよう今後も取り組んでいきたい。

●2025 年度スケジュールと実施学年

実施時期	学年と位置づけ
５月 23 日	２年生　老年看護学
11 月７日	２年生　実習オリエンテーション演習
１月 23 日	１年生　老年看護学実習Ⅰ





交流会の様子



●地域の方々に手浴や足浴、血圧測定などの看護技術を受けていただき実践的な経験を積むことができました。お一人お一人と向き合いながらケアを行うことで技術だけでなく寄り添う気持ちやコミュニケーションの大切さを学びました。「気持ちよかったよ」「ありがとう」の温かい言葉が、とても大きな励みとなりました。地域の方々と過ごした時間はかけがえのない経験となりました。この学びを活かし、心のこもった看護を行います。（学生 A）

●地域交流を通して、相手に応じたコミュニケーション方法を学ぶことができました。ゲームを共にする中で相手の考えを尊重することや相手に合わせることの大切さを実感しました。また体調や心情に配慮することの重要性も学びました。これらの経験は実習にも大きな影響を与えてくださいました。地域の方々からいただいた「気持ちよかった」「ありがとう」「頑張ってね」といった温かい言葉を忘れず頑張っていきたいです。（学生 B）